

2 歴史・文化条件

(1) 沿革

稲美町は、万葉集に「いなみ野」と詠まれた古くから人々が生活していた地域の中心です。口碑によれば、天満大池、北山の入ヶ池、野寺の経ノ池は7～9世紀の築造とされ、また、高菌寺、円光寺、清久寺等が古い寺として伝わり、特に高菌寺は650年代の建立といわれ、町の歴史の古さをうかがうことができます。

山らしい山、台地を潤すほどの大きな川もないという水に恵まれない自然条件のもと、先人たちは林や丘を切り開き、ため池等を築造し、かんがい用水を確保して農耕社会を営んできました。明治以降には、悲願であった淡河川疏水（明治24年）、山田川疏水（大正8年）が完成し、ため池や水路等の発達によって水田開発が進み、現在の稲穂に満ちた美しい町としての基礎が築かれました。

明治22年には新しい市町村制によって各村の合併により、加古新村、母里村、天満村の3村が誕生しました。その後、昭和30年に加古村（旧加古新村）、母里村、天満村の3村合併に伴い、稲美町が誕生し、現在に至っています。

(2) 文化財等

稲美町には、平成29年3月末現在で有形・無形の指定文化財が17件あり、その内訳は、建造物が4件（五輪塔等の石造物）、美術工芸品（建造物以外の有形文化財）が9件（彫刻、絵画、考古資料、歴史資料）、史跡が2件（播州葡萄園跡、葡萄園池）、天然記念物が1件（カイツカイブキ）、民俗文化財が1件（野寺山高菌寺鬼追式）となっています。特に、平成8年7月に発見された播州葡萄園跡は、国内で見つかったワインの醸造施設跡では最古級のものとして注目を集め、平成18年に国の史跡として指定されました。

これらのほか稲美町の歴史・風土を物語る文化遺産としては、菅原道真公にちなんだ天満神社、法道仙人により開基されたとされる高菌寺、入ヶ池の人柱の霊を祀ったといわれる川上真楽寺、伏見稲荷の霊を迎えて祀った鳴ヶ岡稲荷神社など、古くからの社寺があります。

また、加古大池、天満大池、入ヶ池、葡萄園池をはじめとした特色あるため池群があります。これらのため池群は文化財としての評価も高く、文化庁「文化的景観180か所」にも選ばれました。

■ 指定文化財の一覧

区分	名称	成立時代	指定			
			国	県	町	
有形 文化財	建造物	五輪塔（国安）			○	
		五輪塔（中村）			○	
		宝篋印塔（国安）			○	
		鳥居（六分一）			○	
	彫刻	地藏菩薩立像（国安地藏）（国安）	南北朝時代			○
		地藏菩薩立像（御旅地藏）（六分一）	南北朝時代			○
		石造阿弥陀如来座像（森安）	明德5（1394）年			○
	絵画	天神曼荼羅（国安）	室町時代末期～ 江戸時代前期			○
	考古資料	播州葡萄園跡 園舎出土品（国安）	明治時代			○
	歴史資料	村方万事議定證（加古）	寛文3（1663）年			○
		母里村難恢復史略（写本）（野寺）	大正時代			○
		淡河川疎水工事図面2点 ①宮ノ谷以西加古郡印南新村草谷村間平面図（野寺） ②淡河川疎水線路全線縦断平面図（野寺）	明治20（1887）年 明治21（1888）年			○
		寛文六年蝻草神出境水論裁決状（絵図・裏書）（岡）	寛文6（1666）年			○
記念物	史跡	播州葡萄園跡（印南）	明治13（1880）年	○		
		葡萄園池（印南）	明治20（1887）年 代末頃		○	
	天然記念物	カイヅカイブキ（中村円光寺）	樹齢350～400年			○
民俗文化財	野寺山高藺寺鬼追式（野寺高藺寺）	近世			○	

注：年代は平成29年時点で判明しているものを掲載しているため、その後の研究等により変わる可能性がある。

資料：生涯学習課